

2023年12月21日
東日本旅客鉄道株式会社
盛岡支社

在来線の雪害対応に関する取組みについて

JR東日本盛岡支社では、冬期間の列車の安全・安定輸送を確保するため、専用の大型除雪車両を使用した線路内の除雪のほか、機械除雪ができない箇所や降積雪の状況により人力による除雪も行い、列車の運行に及ぼす影響を最小限にする取組みを行っています。

1 冬季の雪対策について

(1) 大型保守用機械による除雪

線路保守に用いる大型機械に排雪装置を取り付け、線路内に積もった雪を排雪・投雪し除去することにより列車運行が可能な線路状態を確保しています。

名称	排雪モーターカーラッセル	排雪モーターカーロータリー	投排雪保守用車(ブルドッグ)
			
除雪方法	両端に除雪翼がついており、進行方向の除雪翼を広げ雪を線路外に排雪	進行方向の除雪翼を広げ、雪を中央に集め、ロータリーで掻き揚げながら線路外に投雪（片側ロータリー、片側ラッセル）	除雪装置が変形可能で、ラッセル除雪、ロータリー除雪両方が可能
配備台数	東北本線、釜石線 山田線、花輪線、八戸線 計 7台	田沢湖線、北上線、山田線 花輪線、大湊線、津軽線、奥羽本線 計 11台	津軽線 計 1台

(3) 過去の盛岡支社管内の機械除雪の回数

2020年度	834回
2021年度	778回
2022年度	668回

(4) 2022年度の線区別機械除雪の回数

北上線	162回	釜石線	33回	津軽線	32回
花輪線	111回	東北本線	0回	奥羽本線	36回
田沢湖線	97回	大船渡線	0回	大湊線	48回
山田線	89回	八戸線	60回		

(2) 人力による除雪

大型保守用機械や融雪装置で除雪ができない箇所は人力による除雪を実施しています。
また、無人駅を中心に駅のホームや駅前広場などの除雪には地域の皆さまにも除雪作業を担っていただいております。



※この他、ホームやお客さまがご利用される箇所等の除雪も行っています。

2 近年発生した雪害による輸送影響について

(1) 過去の盛岡支社管内雪害による運休本数

2020年度は雪害による列車の運休が例年と比較しても非常に多い年でした。

2020年度	1,495本
2021年度	1,160本
2022年度	669本

(2) 2022年度の雪害による線区別運休本数

盛岡支社管内では積雪量の多い北上線、花輪線、奥羽本線で運休が多く発生しました。

北上線	109本	釜石線	22本	津軽線	50本
花輪線	104本	東北本線	28本	奥羽本線	213本
田沢湖線	43本	大船渡線	11本	大湊線	26本
山田線	40本	八戸線	23本		

※奥羽本線は一部秋田支社管内の運休本数含む

(3) 主な雪害による列車影響

○2023年1月20日 田沢湖線雫石駅～春木場駅間、倒木による停電発生

【概況】

- ・1月20日21時30分頃に発生、0時40分頃に運転再開
- ・普通列車1本が運休、こまち号3本が区間運休し、お客さま約300名にご迷惑をおかけしました。
- ・運転再開時刻が深夜であったため一部のお客さまは盛岡駅にてはやぶさ号の車両に仮泊いただきました。



○2023年2月11日 山田線上米内～区界間、落雪による遅れ、運休

【概況】

- ・2月11日11時38分頃に発生、16時35分頃に運転再開
- ・2本の列車に360分の遅れ、運休2本



3 今冬の見通しについて

■計画運休等の実施

気象情報などで翌日などに大雪等の雪害が見込まれる場合は、安全確保のために事前に運転計画を検討し計画的に運休します。また、落雪等のおそれが見込まれる場合は、安全確保のために一部区間で列車の速度を落として運転を行います。

運休等の場合は事前に発表することで、通勤・通学でご利用されるお客さまに他の交通機関のご利用をご案内しています。

最新の運転状況は「どこトレ」などの運行情報サービスにてご案内しています。

○2022年度の雪害による線区別計画運休本数

北上線	73本	釜石線	16本	津軽線	0本
花輪線	44本	東北本線	9本	奥羽本線	4本
田沢湖線	0本	大船渡線	11本	大湊線	15本
山田線	20本	八戸線	19本		